

ISSN 0912 - 0114

南予生物

Vol.18 2016



南予生物研究会

<表紙写真の解説>

上段左から：ニイニゼミの羽化，ハルゼミの抜け殻，チッチゼミの抜け殻，ツクツクボウシの抜け殻
下段左から：ヒグラシ，ミンミンゼミ，ツクツクボウシ，チッチゼミ，アブラゼミ，クマゼミ

セミの鳴き声は夏を感じる風物詩で，セミ取りは子どもたちの夏休みの最も一般的な遊びでした(平塚市博物館「みんなで調べよう」，2004)。ニイニゼミは平地や市街地や果樹園に，アブラゼミは平地・市街地の樹林や果樹園に，ハルゼミは平地から低山地のマツ林に，ヒメハルゼミはスダジイなどの照葉樹林に，ヒグラシは山地のスギ山など湿った林に，ミンミンゼミは低山地の湿った林にと，それぞれ生息地は異なっています(宮武・加納，1992)。

セミの同定は，成虫を捕まえる以外にも，抜け殻でも可能です(浜口，1995)。このため，市民が環境をはかる「ものさし」として使えるとして，いろいろなところでセミの抜け殻調査が行われています。

文 献

浜口哲一．1995．セミのぬけがらの見分け方．昆虫と自然，30(10)：4-9．

平塚市博物館「みんなで調べよう」，2004．平塚市におけるセミの抜け殻調査(2003年の調査結果)．

平塚市博物館研究報告「自然と文化」，27：1-18．

宮武頼夫・加納康嗣．1992．検索入門セミ・バッタ．保育社，大阪．215pp．

写真・解説：松田久司(かわうそ復活プロジェクト)